

将来設計を考えた経営継承

経営継承までのプロセス

2014年

後継者は酪農ヘルパーをしながら、経営継承できる酪農家がないかを探し始める

2017年

先代経営者は娘4名と家族会議を行い、親族継承はしないことを確認

2018年

後継者より先代経営者に対し、経営継承したい旨を申し出、了承

かくして具体的に
継承の取組みがスタート!

関係者に継承に必要な資金調達や
契約内容の相談開始

2019年

普及指導センターに通いながら、経営継承画書の作成に着手

2020年10月

先代経営者の農場で研修を開始

金融機関に、事業計画の提出と借入相談を開始。事業譲渡契約締結に向け第三者支援のもと本格的に開始

事業譲渡契約により継承



先代経営者／
阿部 隆一さん
(63歳)の場合

計画的な経営継承の重要性に早くから気づき、10年かけて実行に移す。親族に継承の意思がないことを確かめ、第三者継承を目指した。

- 収入金額：38百万円(2018年)
- 所得金額：16百万円
- 従業員数：家族従事者1名
- 事業地：岩手県岩泉町
- 事業概要：農産物の生産(酪農)
- 規模：経産牛26頭、牛舎528㎡、牧草地8ha

酪農ヘルパーに継承（第三者継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 事業譲渡半年前より、先代経営者から農業経営に関する指導を受ける。

資産（モノ・カネ）の継承

- 事業譲渡契約を行い、農地以外の資産を一括譲渡。
対象…農業用機械、牛舎、生物（経産牛）
資金調達は、青年等就農資金を利用。
- 農地については、農地中間管理機構を利用し、賃借（有償）。
- **【金額の算定】**
機械はメーカー中古価格を参考。乳牛は市場価格とJAの評価。不動産は固定資産税評価額を参考とした。

知的資産の継承

- 継承後も生産技術指導として、先代経営者と年間雇用契約（時間給）を行い、継続的な関係を維持し、経営のアドバイスを随時もらう。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／山屋 祐太さん（28歳）

継承年月…2020年10月
収入金額…非公開
所得金額…非公開
従業員数…家族従事者1名、アルバイト1名（移譲者）
事業概要…農産物の生産（酪農）
規 模…経産牛39頭、牛舎528㎡、牧草地8ha

経営主として、責任を感じ、いかに経営を維持発展させるかを考えている。先代経営者が大切にしていた設備を譲りうけたことで、物の大切さを実感しており、修繕しながら、効率のよい生産を目指す。

機械化にも徐々に取組み、作業効率を上げ、規模拡大も検討しながら、地元の重要な産業として、盛り上げていく。



👉 次ページにて継承ポイントを詳しく解説

阿部さんのケースから学ぶ 経営継承あるある

登場人物



先代経営者：阿部隆一



後継者：山屋祐太



グッドポイント①

先代経営者は、夫婦のどちらかが
体調をこわすと経営が悪化し、廃
業にもつながることから、65歳ま
でに借金なしで継承すると決めて
いた。また、人生設計で酪農をや
めた後にすることのイメージも
持っていた。

55歳のときに嫁いだ娘たちとの家
族会議を開き、親族は継がないこ
とを確認。家業の今後のことは
先代経営者夫婦に任せることで
合意。

人生設計を
考えた継承



